

タ イ ト ル		
脊椎腔内悪性腫瘍の治療に適用可能な放射線治療用仰臥補助具		
技術分野	利用分野・適用可能分野	情報メモ
<input type="checkbox"/> 食品・バイオ <input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 化学・薬品 <input type="checkbox"/> その他()	医療分野(脊椎腔内への播種の可能性がある悪性腫瘍に対する放射線治療)	別紙資料: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 サンプル: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 見学: <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 その他:
提供特許情報(出願番号等 / 出願日 / 出願人)		関連特許番号
出願番号:実願2007-008184 出願日:2007年10月24日 発明の名称:放射線治療用仰臥補助具 出願人:学校法人久留米大学		
目的・効果・特徴		
<p>【用途】 脊椎腔内に生成した播種の可能性のある悪性腫瘍の放射線照射(全脳・全脊椎照射)治療に用いる補助具</p> <p>【従来治療方法】 放射線の照射位置設定、作業のし易さ等から、被治療者をうつ伏せ(伏臥)状態で、静止状態させている。</p> <p>【従来方法の問題点・欠点】 1) 静止状態での伏臥は肉体的負担が極めて大きく、精神的不安や肉体的苦痛が大きい。 2) 治療中は、被治療者の呼吸状態の観察・管理が必要であるが、確認しづらい。 3) 小児への照射の場合は、位置固定のため、鎮静剤の使用、ベルト等による固定が必要である。 4) X線撮影と異なり、放射線の大量照射を必要とするが、全脳と全脊椎のつなぎ目部分の重複照射を回避しにくい。</p> <p>【本考案の特徴・利点】 上記問題点を克服する方法である。 1) 肉体的・精神的苦痛を緩和し仰向け(仰臥)状態でも、本放射線照射治療を可能とする補助具の考案。 2) 脊椎位置の確認が容易に行え、簡便に照射位置設定が可能となる。 3) 被治療者の固定を容易に行うことができ、伏臥による肉体的、精神的苦痛が取り除かれる。 4) 簡便且つ、確実に重複照射を避けることを可能とし、治療における安全性、操作性を格段に向上させる。</p> <p>【効果】 放射線照射治療の苦痛を緩和し、簡便かつ安全に治療を可能とする。</p>		
技術概要		
本考案は 1) 仰向け(仰臥)状態でも容易に脊椎の位置を確認し、照射位置を簡便・容易に設定可能な補助具と 2) 苦痛を緩和し、かつ効果的に被治療者の長時間の静止状態を確保可能とした補助具と 3) 重複照射を安全かつ確実に回避することを可能とした補助具 から構成されたシンプルかつ容易に製作可能な補助具である。		
図・特記事項・その他		